



**RESEARCH CENTER FOR THE FUTURE CITY DESIGN
CORRESPONDING TO GLOBAL ENVIRONMENT PROBLEMS**
**RESEARCH GROUP FOR THE FUTURE CITY DESIGN
CORRESPONDING TO GLOBAL ENVIRONMENT PROBLEMS**
<http://future-cities.ynu.ac.jp>

【講演資料】 開会挨拶

横浜国立大学大学院都市イノベーション学府・研究院長
梅本 洋一 氏

地球環境未来都市研究会 設立記念シンポジウム

地球環境未来都市をデザインする

2012年7月25日[水] 14時⇒17時 | 参加無料

◎横浜開港記念会館講堂 231-0005 横浜市中区本町1丁目6番地
www.city.yokohama.lg.jp/naka/kaikou/

共催 (独)海洋研究開発機構/横浜国立大学地域実践教育研究センター/東京大学 豊坂博行研究室 (株)日立製作所情報・通信システム社/大成建設機務センター/東京ガス(株)エネルギー企画部/ESRIジャパン(株)
後援 横浜市温暖化対策統括本部/都留市

開会挨拶

梅本 洋一 氏

横浜国立大学大学院都市イノベーション学府・研究院長

暑い中、お忙しい中、地球環境未来都市研究会設立記念シンポジウムにご参加いただき、ありがとうございます。本日、大学研究機関の3者が発起人になり、自治体企業6社が参加して、地球環境未来都市研究会が発足しました。本研究会の幹事である横浜国立大学の地域実践教育研究センターは、地域を学び、研究の場とする全学的なセンターです。このセンターと密接に連携し、これからの都市づくりに関わる教育研究に取り組んでいるのが、私の所属する都市イノベーション研究院です。本日は主催者を代表して、また、この研究会の出口となる成果のユーザーという立場も含めてごあいさつさせていただきます。

現在の都市はさまざまな課題を抱えています。地球環境問題の深刻化、人口減少、超高齢化、グローバル化する社会や経済、そして頻発する地震や風水害などの災害があります。これらへの対応を具体的にどのように行って、サステナビリティを確保しながら、創造性あふれるクリエイティブな都市を実現するのか。その課題こそが、今、環境未来都市として国に選定された、横浜市をはじめとする11の都市が取り組んでいる大きなテーマです。

このような未来都市の実現の鍵を握っているのが、情報技術革命でもたらされた情報コミュニケーション技術(ICT)です。ICTを活用して、地・水・大気・生物・人間という環境5圏の環境データベースとモデルシミュレーションの機能を備えた、その環境データと連係した時空間情報プラットフォームを構築します。そして、それをツールとして地球環境に対応した未来都市のデザインを実現していくことが、この研究会の目標です。これまで見えなかった環境で、社会経済活動や分野を超えたつながりなどのすべてを可視化(見える化)し、共有化することができます。このように分野を超えた協働が可能になることが、必要な合意形成、協働のパワーを引き出すことにつながると考えられます。

このようなツールの開発には産学官の連携が必要です。大学などの研究機関には、これまでの知の蓄積をフルに生かした質の高いコンテンツづくり、精度の高いシミュレーション技術の提供が期待されます。企業には、ICT ツールを実現する情報技術を現場の実務に活用するための技術開発が期待されます。そして、出来上がった技術をエンドユーザーである私たちが自治体の方々とともに、都市デザインに自由自在に使いこなすということが、近い将来実現することが大いに期待されています。

私は大学の教員として日ごろ若者たちに接し、家庭では子どもたちに接しています。こうした若い人々こそ未来都市の担い手であり、私たちはそうした未来都市の担い手に、少しでも良い形で都市を手渡したいと考えています。

本日のシンポジウムでは、地球環境未来都市研究会の設立の報告、研究会のメンバーの今後の取り組み、成果の具体的なイメージなどについての講演を行います。その後、エンドユーザーであり、都市計画、建築都市デザイン、経済社会システムづくりを専門とする横浜国立大学の教員を交えたディスカッションによって、この研究会に期待するものを浮き彫りにしたいと考えています。どうか最後までご参加いただき、地球環境に対応した未来都市デザインについて一緒に考えていただければ幸いです。本日はどうぞよろしくお願いいたします。